

国際塾第6回

「最先端科学とアートの出会い～ミュオグラフィアートとは？」の感想

岡山県立岡山一宮高等学校2年

福島 ななみ

ミュオグラフィアートは、サイエンスの理論と実証、アートの感性と巧みの技が融合されたものだということが分かった。

アーティストが、アートで相対性理論を表現したり、ある一つのテーマについて、たくさんの人がそれぞれ異なったものを書き、なかなか思いつかないようなことが書かれていたり、書かれている内容を見て、とても共感できるものが書いてあったりと、とても興味深かった。そして、自分の考えたことを、アートで他の人に伝えられるのは、とても凄いことだと思った。

ミュオンとは、超新星の爆発とときのものが、何億光年もかかり、地球に届き、地球の大気圏にふれることで、ミュオンになるということが分かった。

X線と、ミュオン、ニュートリノは、同じ性質だが、エネルギーの違いによって、何が分かるかが違うということが分かった。

ミュオンを使って、桜島などの火山のマグマの状態が分かるのは、とてもすごいことで、この技術のおかげで火山の噴火の被害で、亡くなる人が少しでも減れば良いと思った。また、この技術を他のものにも応用し、今までわからなかったものが解明されていけば良いと思った。

これからは、アートによって感性を育てていった方がいいということが分かったので、これからは、出来るだけ感性を育てていきたいと思う。

失敗から触媒を見つけたり、クラゲが光っているのを発見したりと、失敗から成功につなげることができるので、これからは、失敗を恐れないようにしようと思う。